別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成30年1月15日

協議会名：安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
南安タクシー有限会社 安曇観光タクシー株式会社 明科第一交通株式会社 株式会社バイタル	「あづみん」区域運行 地域間幹線系統路線に接続するデマンド交通を9系統運行する 車両減価償却費等国庫補助金を活用し、車両を1台購入し「あづみん」の運行に使用した	前回までの事業実施状況の確認とともに、地域公共交通網形成計画の策定作業に伴う市民アンケートや乗込調査、利用状況の分析などを行った。 このなかで、様々な課題が見えてきたが、利用実態については、延べ利用者数及び実利用者の減少とともに、1人当たり利用回数が増加している。 このことからヘビーユーザーに、より一層利用していただいている一方で、利用機会が無い人が増えている状況がある。 協議会事務局（市）でも公共交通の利用促進に向けて、「あづみん」を含めた公共交通全般について広報紙などで周知を図った。	A	計画どおり運行できた。	B	計画での目標値は「1日平均利用者数：420人、年間利用者数： 102,060人」であるが、利用者は平成24年度をピークに減少傾向である。 今年度の実績としては「1日平均利用者数：351.5人、年間利用者数：85,759人」であった。なお、昨年度は「1日平均利用者数：351.9人、年間利用者数：85,513人」であった。	網形成計画策定と「あづみん」運行見直しの検討のなかで、市内5地域間のサービスの平準化や、予約断り件数の解消など具体的な取組みを予定している。 また、左記の目標については、連携計画策定以来、達成されてこなかったため、網形成計画において、より現実的な評価指標を定め、評価、検証及び見直しにつなげたい。

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月15日

協議会名：	安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は約９万８千人、面積は約332km²で、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部、及び平たん部から構成されている。全国の多くの自治体と同様に本市でも高齢化が進んでおり、特に山間部などの中山間地で高齢化が顕著である。 当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん」（以下「あづみん」と言う。）の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段として、また、その運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの２路線間を結ぶ定時定路線により、通勤・通学者の移動の確保を図るといった交通モードにより、生活交通ネットワークの構築を図っているところである。 特に「あづみん」の利用者の大半が高齢者及び障がい者であることから、交通弱者の足として定着している。また、運行開始から10年以上が経過する中、利用者の更なる高齢化が進むとともに、障がい者の利用も増加している。 本市の中山間地では道路が狭隘な地域が多く、また、市域も広大なため、１回の運行で多くの人に乗車いただくことが難しいという地理的要因に加え、利用者数の減少が運賃収入の減収に拍車をかけている。こうしたことから、「あづみん」の財源のうち、運賃収入については現状維持、若しくは減少が予想される。 本市の協議会としても利用者の増加を図り、収入増を目指す努力が必要ではあるが、「あづみん」を維持する上でも、国庫補助金である当該補助事業は重要な財源であり、必要不可欠な事業である。

別添2

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成30年1月15日

協議会名：安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名：バリアフリー化設備等整備事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
南安タクシー有限会社	福祉タクシー導入	平成28年度に1台導入。デマンド交通「あづみん」運行にも利用している。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	A	事業が計画に位置付けられた目的を達成した	今後も計画的に実施していきたい